

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➢ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➢ 会員寄稿記事	4
➢ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	7
➢ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	8

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー『第8回小さな自然再生現地研修会 in 秋田』開催予告

本年度3回目となる、「小さな自然再生」の普及促進に向けた現地研修会を、秋田県仙北市にて、平成30年2月27日(火)を開催候補日として最終調整中です。

当地での開催は、当初は10月上旬を予定していましたが、この夏(平成29年7月22日~23日、8月24日~25日)の2度に渡る豪雨被害を受け、延期していたものです。

開催内容は座学、ワークショップ等を予定していますが、上記経緯や豪雪地帯であるという地域の特徴も踏まえ、企画を最終調整中です。今後、本研修会の参加申込みとあわせてホームページやニュースレター等にて改めて詳細をお伝えする予定ですので、楽しみにお待ちしております。



開催候補地(雄物川水系) 2016年10月撮影

第8回小さな自然再生現地研修会 in 秋田

【開催候補日】2018年2月27日(火) ※最終調整中

【地域】秋田県雄物川水系

【会場】秋田県仙北市内(詳細未定)

【定員】100名(予定)

【内容】午前:「小さな自然再生」に関する座学研修
午後:ワークショップ

【主催】「小さな自然再生」研究会

【共催】秋田県建設部河川砂防課、
日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

※小さな自然再生普及プロジェクトは(公財)河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・阿部充)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

JRRN 共催「応用生態工学会 2017 年度国際シンポジウム『不確実性を増す気候および環境ストレス下での河川流域管理－アジアにおける洪水リスク対策と環境保全－』開催案内：12/13(水)@東京

応用生態工学会 2017 年度国際シンポジウム『不確実性を増す気候および環境ストレス下での河川流域管理－アジアにおける洪水リスク対策と環境保全－』を、JRRN 共催で、**2017 年 12 月 13 日 (水)** に東京工業大学・大岡山キャンパスにて開催致します。

史上初めて 3 つの台風が北海道に上陸するなど気候変動の兆候がアジア諸地域でも顕在化する中、将来気候の予測は不確実性を内包するため、予測困難な降雨による洪水・渇水リスクおよび継続的なその他環境ストレスへの対策と自然生態系の保全を両立させる順応的な河川・流域管理が求められています。

こうしたニーズに応じ、本シンポジウムでは、同様の課題に直面するアジア諸外国とともに事例・知見を共有し、今後の課題や展望を議論致します。



Speakers

Assoc. Prof. Thomas Cochrane
(Univ. of Canterbury, NZ)
"Mekong Ecosystems at Risk:
Adapting to impacts of water infrastructure
development, climate change and land use change"

Prof. Sinjiro Kanae (Tokyo Tech, Japan)
"Impact of climate change on floods and water
resources on global to local scales and implication
from recent disasters in Japan"

Ministry of Land Infrastructure,
Transport and Tourism (Japan)
"Water-related disaster management for
adaptation to climate change"

Drainage Services Department
(Hong Kong)
"Climate change and its implication on planning
and construction of drainage infrastructure
in Hong Kong"

Prof. Futoshi Nakamura
(Hokkaido Univ., Japan)
"Adaptation to climate change and biodiversity
conservation using green-infrastructure"

Organized by



DATE: **13 Dec. 2017**

TIME: **1:00pm-5:00pm**

Tokyo Tech, Lecture Theatre

Managing rivers & watersheds in the Asian region under climate uncertainty & anthropogenic stressors

Climate change-related weather anomalies have increasingly become apparent in the Asian region. Demands for knowledge to better management of rivers and watersheds by taking a good balance of engineering flow control and conservation of biodiversity have never been higher. This symposium aims to bring knowledge and experiences in different countries together and discuss prospective countermeasures.

To register/for inquiries, contact with "name" & "affiliation" to eces2017symposium@gmail.com

Funded by

The River Foundation



応用生態工学会 2017 年度国際シンポジウム

【日時】2017 年 12 月 13 日 (水) 13:00~17:00

【主催】応用生態工学会

【共催】日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

【会場】東京工業大学 大岡山キャンパス レクチャーシアター

http://admissions.titech.ac.jp/admission/event/pdf/lecture_theater.pdf

【定員】120 名 (定員になり次第締め切らせて頂きます)

【参加費】 無料

【プログラム (案)】

<基調講演>

Tom A. Cochrane (University of Canterbury, New Zealand, Associate professor)

<講演>

梶 信次郎 (東京工業大学 教授)

森本 輝 (国土交通省 水管理・国土保全局)

Raymond Tai (香港特別行政区政府 渠務署)

中村 太士 (北海道大学 教授)

<パネルディスカッション>

コーディネーター：渡辺 幸三 (愛媛大学 教授)

パネリスト：講演者

【参加申込方法】

参加希望者は、eces2017symposium@gmail.com

宛に以下を明記の上、お申込み下さい。

- ① ご芳名、② ご勤務先名、③ 郵便番号、④ 住所、⑤ 電話番号、⑥ FAX 番号、⑦ Email アドレス

※土木学会継続教育(CPD)制度のプログラムを申請中です。

※本シンポジウムは逐次あるいは同時通訳で開催します。

※本シンポジウムは、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

※「応用生態工学会 2017 年度国際シンポジウム」案内チラシは以下のページからダウンロードできます。

→ <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/853.html>

年末のお忙しい時期ではありますが、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

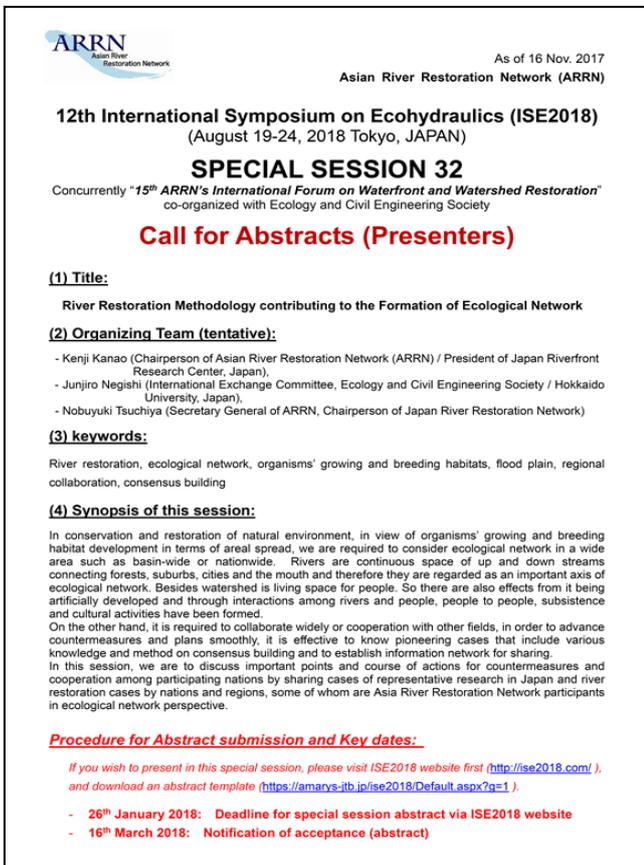
(JRRN 事務局・和田彰)

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN) – 「第15回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」(2018年8月・東京)の論文募集中(1月末〆切)

来年の ARRN 国際フォーラム 2018 は、応用生態工学会と共催する ISE2018 (International Symposium on Ecohydraulics: ISE2018) の特別セッションとして、ISE2018 会期中の **2018年8月19日(日)から8月24日(金)** に、東京にて開催致します。

特別セッション 32 に登録され、「生態系ネットワークの形成に寄与する河川環境とその再生手法」をテーマとしています。本セッションでは、日本における代表的な研究事例や、アジア河川・流域再生ネットワークの参加国をはじめとした各国・地域における生態系ネットワークの観点から取り組まれている河川再生の事例について情報共有することで、各国の今後の対策手法や協力体制の参考に資する留意点や方向性等について議論することと致します。

只今、特別セッション 32 への要旨を募集中でございます(2018年1月26日(金)締切)。発表を希望される方は ISE2018 のホームページから要旨の様式をダウンロードし、ISE2018 事務局に直接お申込みください。皆様のご応募を心よりお待ちしております。



ARRN
Asian River Restoration Network
As of 16 Nov. 2017
Asian River Restoration Network (ARRN)

12th International Symposium on Ecohydraulics (ISE2018)
(August 19-24, 2018 Tokyo, JAPAN)

SPECIAL SESSION 32
Concurrently "15th ARRN's International Forum on Waterfront and Watershed Restoration"
co-organized with Ecology and Civil Engineering Society

Call for Abstracts (Presenters)

(1) Title:
River Restoration Methodology contributing to the Formation of Ecological Network

(2) Organizing Team (tentative):
- Kenji Kanao (Chairperson of Asian River Restoration Network (ARRN) / President of Japan Riverfront Research Center, Japan).
- Junjiro Negishi (International Exchange Committee, Ecology and Civil Engineering Society / Hokkaido University, Japan).
- Nobuyuki Tsuchiya (Secretary General of ARRN, Chairperson of Japan River Restoration Network)

(3) keywords:
River restoration, ecological network, organisms' growing and breeding habitats, flood plain, regional collaboration, consensus building

(4) Synopsis of this session:
In conservation and restoration of natural environment, in view of organisms' growing and breeding habitat development in terms of areal spread, we are required to consider ecological network in a wide area such as basin-wide or nationwide. Rivers are continuous space of up and down streams connecting forests, suburbs, cities and the mouth and therefore they are regarded as an important axis of ecological network. Besides watershed is living space for people. So there are also effects from it being artificially developed and through interactions among rivers and people, people to people, subsistence and cultural activities have been formed.
On the other hand, it is required to collaborate widely or cooperation with other fields, in order to advance countermeasures and plans smoothly, it is effective to know pioneering cases that include various knowledge and method on consensus building and to establish information network for sharing. In this session, we are to discuss important points and course of actions for countermeasures and cooperation among participating nations by sharing cases of representative research in Japan and river restoration cases by nations and regions, some of whom are Asia River Restoration Network participants in ecological network perspective.

Procedure for Abstract submission and Key dates:
If you wish to present in this special session, please visit ISE2018 website first (<http://ise2018.com/>), and download an abstract template (<https://amarys-jtb.jp/ise2018/Default.aspx?q=1>).
- 26th January 2018: Deadline for special session abstract via ISE2018 website
- 16th March 2018: Notification of acceptance (abstract)

ISE2018 特別セッション 32

【ISE2018 会期】

2018年8月19日(日)～8月24日(金)

※特別セッションのプログラムは後日決定

【特別セッション名】

生態系ネットワークの形成に寄与する河川環境とその再生手法 (River Restoration Methodology contributing to the Formation of Ecological Network)

【特別セッション編成(案)】

金尾 健司 (アジア河川・流域再生ネットワーク 会長、公益財団法人リバーフロント研究所 代表理事)
根岸 淳一郎 (応用生態工学会、北海道大学 准教授)
土屋 信行 (日本河川・流域再生ネットワーク 代表理事、公益財団法人リバーフロント研究所)

【キーワード】

河川再生、生態系ネットワーク、生物の生息・生育環境、氾濫原、広域連携、合意形成

【要旨または論文の申込方法】

発表希望者は、ISE2018 のホームページへアクセスし (<http://ise2018.com/>)、要旨の様式をダウンロード (<https://amarys-jtb.jp/ise2018/>) 後、案内に沿ってお申込み下さい。ISE 事務局による査読を経て採否の通知がまいります。

- **2018年1月26日(金)**
特別セッション要旨締切
- **2018年5月16日(水)**
要旨査読結果の通知

(JRRN 事務局・佐治史)

http://www.a-rr.net/news/2017/11/call_for_abstract_of_15th_arrn.html

12月



撮影：2006年12月（アリゾナ州 グランド・キャニオン国立公園にて）



あの日のあの川 リレー日記 ～第34話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第34話主人公 田川未来也

（筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類4年 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（□川ガール・■川系男子）

（出身地を流れる川：群馬県 利根川水系鏡川）

「絶景に魅せられて」

いつのこと？： 小学校5年

どこの川？： コロラド川（アメリカ合衆国）

正直に申し上げますと、2年前にこの研究室に入るまで、私は川というものに関心をもったことはなかった。川との関わりがあったとすれば、台風などで大雨が降ると川の水がどれだけ増えただろうか、と面白半分に親が運転する車の後部座席から地元の鏡川を眺めることはあった。また、家から少し離れたところに三途川という小さな川があり、遊びに出かけるときは何度もその川を渡って行き来したぐらいのものだ。言うまでもなく危ない命知らずな少年である。そんな私が、この研究室に入る以前に一度だけ、ある川に対して「川ってすげえな」と思ったことがあった。それが、かの有名なグランド・キャニオン、そしてその一帯の絶景を長い年月をかけて生み出した、コロラド川である。

幼少期、父親の仕事の関係でアメリカ合衆国に住んでいたころ、旅行でグランド・キャニオン国立公園とその周辺一帯に連れていってもらった。グランド・キャニオンがどれほど雄大であるかという話は、私がここで書くよりも、『地球の〇き方』などの旅行のガイドブックなどの方が詳細に書かれているかと思うので、ここでは割愛し、私が川に対して何を感じたということを中心に述べさせていただく。当然私もアメリカ随一の国立公園が誇る絶景には感動したが、このときは不思議とコロラド川という川そのものに対する興味もあったのだ。

私が住んでいたカリフォルニア州のサンディエゴという街は、上水道の取水源がコロラド川であった。水道から出る水は、海外には多い硬水の例に漏れることなく、そのうえ少し内陸部に行けば砂漠が広がるという環境もあってなのか、カルシウム分を多く含んでいたことは今でも鮮明に記憶している。そのまま飲めば胃袋の中で骨ができるのではないかと、思ったほどである。当時は上水道設備やら排水管やら貯水槽に発想がいたることもなく、このとんでもない悪質な水を供給している川はどんなモノなのか、という良いのか悪いのか分か

らないきっかけで、コロラド川に対する興味が芽生えたのだ。

上述したとおり、コロラド川は水源こそロッキー山脈にあるが、大部分が砂漠の中を流れる川である。あくまで想像であるが、途中で合流してくるような支流もほとんどない。乾燥した砂漠地帯でどんどん水が蒸発してしまうだろう。それでいて私が住んでいたサンディエゴだけでなく、アメリカ第二の都市ロサンゼルス水道も担っていたのだから、いろいろな意味で日本とは比べ物にならないスケールの川であるということは想像できた。だが、実際初めて川を眺めた時は、そのようなスケールの大きさは不思議と感ぜられなかった。そもそも谷底のコロラド川の水面までは標高差が裕に2000m以上あり、流れがどれほどのものかなど、肉眼では見えるわけがない。夏場であれば、谷底まで下るツアーなどもあるのだが、訪れた時は冬の始めだったこともあり、谷底まで見学することは叶わなかった。だが、どれほどの量の水がどれほどの速さで流れているのかわからない、そんな川が何億年もの月日をかけて目の前に広がる絶景をつくり出したのだ。川そのものは至って穏やかに見える。でも目の前には荒々しく削られた岩の渓谷が広がっている。一本の川が、赤岩の広がる大地の真ん中を切り裂くように流れ続け、この景色ができた。その過程はどれだけ頭で考えても自分には想像に至らないであろう。この川は何億年前から、同じ場所を流れ続け、人間が生まれるよりもはるか昔からこの大地を見続けてきている。そして、そこに生命があったことの証を、川が流れ続けてくれることによって、私たちの目で確かめることができる。川を一つの生き物に例えるのはおかしな話だが、それができてしまいそうなのがコロラド川だった。当時の私の語彙力では「すげえ」としか表現できなかった(悲しいことに今もそうであろう)。だが間違いなく、その言葉の中には川に対する畏敬のようなものがあつたと、いま振り返って改めて思う。

水泳、サッカー、テニス、ちょっと陸上…今までいろいろなスポーツをつまみ食いしてきた私が行きついた先が登山である。高校時代から始めたのだが、何で山を始めたのかよく聞かれることがある。命知らずなバカ、という本質的な部分が変わってないからに他ならないのだが、そんなことを話すと周りから人が遠ざかっていく(気がする)ので、「小さい頃、祖母に連れていってもらったりしたから、それがあってかな」などとそれっぽいことを言っている。だが、登山を始めて一つ気付いたことがあつた。自分の、自然が作り出す景色を見る目が肥えていることである。身体のものであれ以外の部分はどこも肥えていないのに、目だけ肥えてしまったのだ。その原因の筆頭が、コロラド川が作り出した景色なのは間違いないと思う。

それゆえに、普通の人気が軽にはいけないところで絶景が見たい、という思いが人一倍強くなってしまった。その一心が私に、学生という立場でありながら登山>>>>山に行くお金稼ぎのためのバイト>>学業という生活を送らせている。おかげで昨年、今年と2年連続して、かねてから憧れていたヨーロッパに足を運ぶことができた。山があるところには必ず川がある。ヨーロッパの登山拠点になる町に滞在すれば、必ず町の中を、氷河を水源とする独特の水の色をした川が流れている。町を散策するとき、自然と川沿いへと歩を進めるようになってしまったことが、この研究室に入ったことの何よりの証であろう。だが、川を見る目が多少変わった今もなお、コロラド川ほど魅せられた川には国内外問わず、出会ったことがない。それほど、言葉では言い表すことのできない凄み、そして奥深さが、コロラド川からは感じられた。

この先の人生、一度でいいからコロラド川よりも引き込まれる川、そしてその川が作り出す絶景に出会ってから本物の三途の川を渡りたいものである。



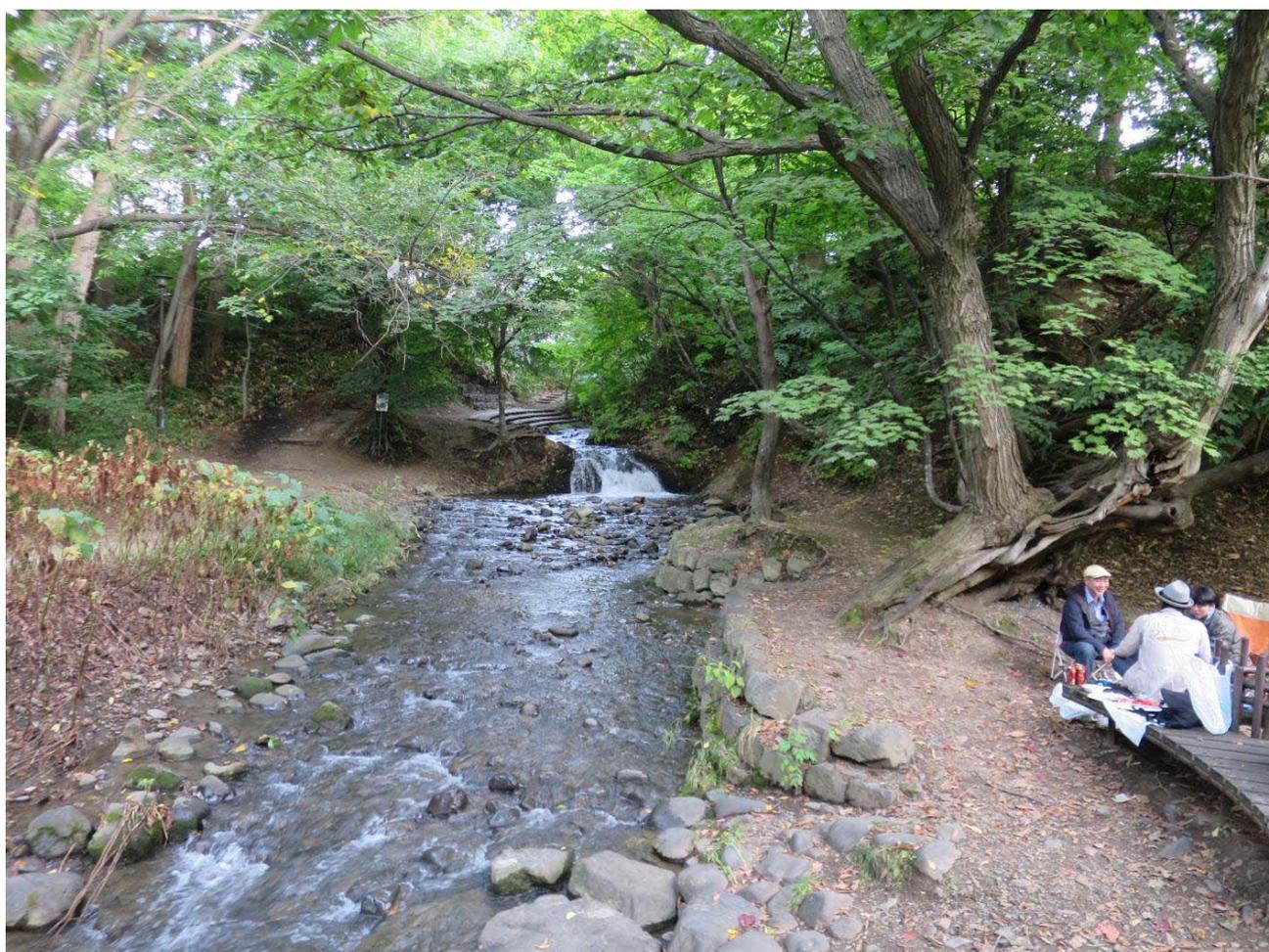
ホースシュー・ベンドにてコロラド川を見下ろす

(次号は2月号にて南波さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.103

岡村幸二 (JRRN 会員)

懐かしい水辺空間： 川の生態系の復元により精進川にもサケが登ってきた



撮影：2017年10月（北海道札幌市・精進川）

◆自然再生の川・ふるさとの川

1970年代には一度、単断面の積ブロックの護岸改修がなされましたが、1992年から河畔林の保全や川の生態学の復活、景観・親水性の向上などをテーマに「ふるさとの川づくり」に取り組みました。

◆涼しい風が通る精進川に

川づくりの工夫として、「人の手は控えめに加える」「自然の遷移に期待する」「既存の護岸材料を再利用する」などに力を入れました。25年たった今、樹林は大きく成長して森を流れる小川となりました。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「市民フォーラム『里山グリーンインフラの可能性』(2017年12月17日)」のご案内

12/17(日)に東邦大学習志野キャンパスにて開催される市民フォーラム「里山グリーンインフラの可能性」のご案内を頂きました。
 昨年12月に開催した『第5回「小さな自然再生」現地研修会 in 千葉県白井市・神崎川』にご協力頂きました方々も多数登壇されます。

- 日時：2017年12月17日(日) 13:00~16:30
- 場所：東邦大学薬学部 C101 (東邦大学習志野キャンパス)
- 主催：東邦大学理学部 野生生物保全研究センター
- 参加費：無料
- ◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2944.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「第14回ふくおか水もり自慢! in 矢部川 (2017年12月17日)」のご案内

古賀河川図書館の古賀館長より、12月に福岡県八女市で開催される「第14回ふくおか水もり自慢! in 矢部川」のご案内です。「ふくおか水もり自慢!」は、福岡県内の「水・もり(森)」など水環境の保全に関わる活動をしている団体(学校、市民団体、NPO、国、地方自治体、企業)が一堂に会し交流することによって、団体間の交流や行政と市民団体のパートナーシップの促進を図る目的で開催されます。

- 日時：2017年12月17日(日) 10:00~
- 場所：八女市民会館<おりなす八女> (福岡県八女市本町602-1)
- 主催：第14回ふくおか水もり自慢! in 矢部川 実行委員会
- 参加費：無料
- ◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2938.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「土木学会デザイン賞2017」選考結果発表及び授賞式開催(2018年1月21日)のご案内

土木学会デザイン賞(正式名称:公益社団法人土木学会 景観・デザイン委員会デザイン賞)において、2017年度的最優秀賞、優秀賞、奨励賞の計13作品が決定しました。

また2017年度の土木学会デザイン賞授賞式を2018年1月21日(日)に開催いたします。

今年是最優秀賞に「アザメの瀬 湿地の転生」ほか、河川やダム施設の受賞があります。是非ともご出席賜りますようよろしくお願い申し上げます。

- 2017年度 授賞対象作品の詳細：<http://design-prize.sakura.ne.jp/award>
- 選考委員による総評：http://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result_comment
- ◆ 詳細は以下参照：<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2949.html>



会議・イベント案内 (2017年12月以降) Event Information

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■第7回「小さな自然再生」現地研修会 in 岡山県西粟倉村

- 日時：2017年12月6日(水)～7日(木)
 - 主催：「小さな自然再生」研究会
 - 場所：エーゼロ株式会社(岡山県英田郡西粟倉村)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/841.html>

■応用生態工学会 2017年度国際シンポジウム

- 日時：2017年12月13日(水) 13:00～17:00
 - 主催：応用生態工学会
 - 場所：東京工業大学 大岡山キャンパス(東京都目黒区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/853.html>

■河川・湖沼における水草管理に関するシンポジウム

- 日時：2017年12月15日(金) 13:10～17:30
 - 主催：山口大学工学部グローバル環境・防災学研究会
 - 場所：広島YMCA 本館B1階(広島県広島市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2695.html>

■第10回やまなし農業・農村シンポジウム

- 日時：2017年12月16日(土) 13:00～16:30
 - 主催：山梨県農政部耕地課
 - 場所：東京エレクトロン韮崎文化ホール(山梨県韮崎市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2676.html>

■第14回ふくおか水もり自慢! in 矢部川

- 日時：2017年12月17日(日) 10:00～
 - 主催：第14回ふくおか水もり自慢! in 矢部川実行委員会
 - 場所：八女市民会館くおりなす八女>(福岡県八女市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2689.html>

■市民フォーラム『里山グリーンインフラの可能性』

- 日時：2017年12月17日(日) 13:00～16:30
 - 主催：東邦大学理学部 野生生物保全研究センター
 - 場所：東邦大学薬学部 C101(千葉県船橋市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2944.html>

■「土木学会デザイン賞2017」授賞式

- 日時：2018年1月21日(日) 11:00～17:15
 - 主催：公益社団法人土木学会 景観・デザイン委員会
 - 場所：土木学会講堂(東京都新宿区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2949.html>

■第十三回「外来魚情報交換会」

- 日時：2018年1月27日(土)～28日(日)
 - 主催：琵琶湖を戻す会
 - 場所：草津市立まちづくりセンター(滋賀県草津市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2679.html>

書籍等の紹介 Publications

■水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？(2017.3発行)

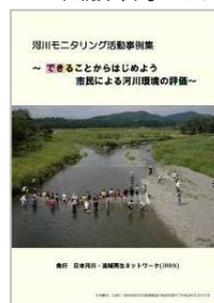
- ・発行：「小さな自然再生」研究会/日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行年月：2017年3月
- ・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>
JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

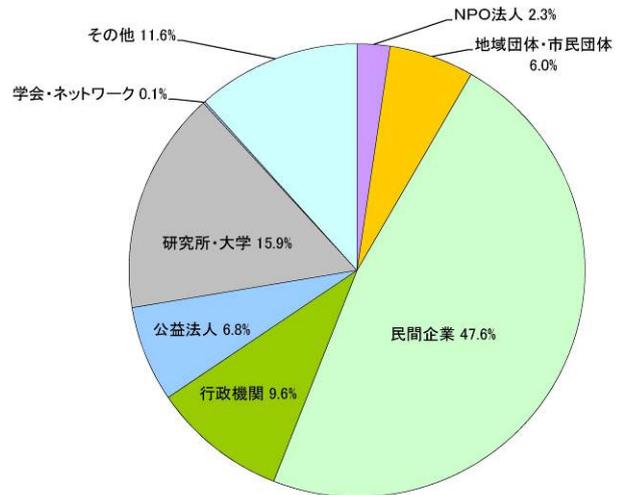
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2017年11月30日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：767名、団体会員数：60団体)

※11月の新規入会数：個人会員1、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

